

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

# 農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成24年5月31日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます

パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 一番草のサイレージ調製は基本技術(出穂期収穫、適切な予乾など)の徹底、飼料用トウモロコシの雑草対策として、必要に応じて除草剤の生育期処理の準備をします。
- ◆ 草地除染対策(完全更新)では、供給される肥料や作業を確認し、牧草定着を確実なものにしましょう。
- ◆ これから耕起・砕土が始まる圃場では、前植生の処理が必要になります。
- ◆ 本格的な暑さに向け、牛舎環境を点検し、暑熱の影響緩和対策として必要な資材や機材の準備、設置を急ぎましょう。

## 1 草地管理、トウモロコシの栽培

### (1) 牧草地

#### ア 一番草の収穫及びサイレージ調製

(ア) 粗蛋白質含量や可消化養分総量などの栄養価を高く保ち、乾物収量を確保するため、出穂始期から出穂期の刈りに努めます。

(イ) 刈取後の牧草の再生力を確保するため、刈り取り高さは10cm程度にします。

(ウ) 土の混入や予乾が不十分な状態でサイレージ調製を行うと、酪酸発酵しやすくなります。圃場の起伏や凹凸によって作業速度を落とすなどして、土の混入を防ぎます。また、詰めこみ時水分の目安は、ロールバールサイレージでは50~60%、タワーやバンカーサイロでは65~70%です。降雨が予想され、予乾が不十分な状態で調製しなければならない場合は、不良発酵防止のため、ギ酸やプロピオン酸の添加を検討します。

(エ) ロールバールサイレージ調製の場合、発酵品質の低下を防止するため、成形からラッピングまで必ずその日のうちに完了できるように、作業を計画します。

#### イ 追肥

収穫調製作業が終了したら、早めに追肥を行い2番草の生育を促します。10aあたり窒素5kg、リン酸2.5kg、カリウム5kgが目安です。

### (2) 飼料用トウモロコシ

ア 土壌処理剤で十分に除草できなかった場合は、生育期処理を行います。対象となる雑草に対して効果の高い除草剤を選択します。散布時期は、除草剤によってトウモロコシ2~6葉期まで幅がありますが、散布が遅れないように、圃場観察と除草剤を選択しておきます。

イ 昨年は、一部の地域でタマナヤガ(ネキリムシ)による食害が6月下旬に発生しました。アカザ・タデ類などの幼雑草が産卵の温床となりやすいので、雑草防除を徹底します。また、発生状況に注意しつつ必要に応じて薬剤を散布します。

## 2 草地除染対策(完全更新)の留意事項

牧草地再生対策事業の活用により、プラウ耕による草地土壌の反転とロータリ耕による攪拌など除染対策が行われています。供給される肥料や作業内容等を確認のうえ、牧草の定着を確実なものとしましょう。

### (1) 公社から供給される土壌改良材、化成肥料

#### ア 石灰質資材

粉状の炭カルが供給されています。ライムソアによる施用が基本となりますが、ライムソアが無いまたは借用できない場合は、ブロードキャストの利用事例を参考に散布します。

タンク内での粉状炭カルのブリッジ形成(粉状炭カルが上部でかたまり、空洞ができて下部に落ちない)防止のため、ステアリングデバイス(附属アタッチ)を取り付けて散布した事例があります。散布時は炭カルがかなり飛散しますので、風の無い日を選んで散布します。散布方法が、スパウ

トタイプの場合、飛散防止カバーを装着すると飛散を軽減できると考えられます。また、作業時はマスクを装着して下さい。

ステアリングデバイス、スパウトタイプの飛散防止カバーは、各メーカーで仕様が異なると考えられますので、確認して使用して下さい。



タンク内でのブリッジ防止に有効なステアリングデバイス

### イ ようりん資材と化成肥料

ようりんと化成肥料を混合したものが、土壌のリン酸必要量に応じて供給されていますので、必要量を散布します。

供給されているようりんと化成肥料混合肥料の成分 (%)

窒素	リン酸	カリウム	アルカリ分	ケイ酸	苦土
5.9	23.4	5.9	25.5	11.7	7.1

### (2) 前植生の処理

プラウ耕やロータリ耕がこれから始まる圃場では、既存の牧草や雑草など前植生を処理しなければ機械作業に支障がでる圃場が多いと考えられます。前植生の処理は、非選択性除草剤の散布、モア等での刈り払いにより行います。

## 3 暑熱の影響の緩和

最高気温が 25 度に近くなる日が出てきました。本格的な暑さに向け、牛舎環境の点検と必要な資材や機材の準備をしておきましょう。

### (1) 輻射熱の遮断、遮光

ア トタン屋根など断熱効果の低い牛舎では、屋根裏に断熱材の取り付けまたは吹き付け、屋根表に白色のセラミック塗装や石灰資材の塗布などを行い、屋根から牛舎内に伝わる高熱を遮断します。

イ 寒冷紗により、牛舎への直射日光の侵入を緩和します。特に西日が入り込まないようにします。

### (2) 換気・送風

牛体の周辺を空気が確実に流れることは、体感温度の低下に大きな効果があります。換気扇の増設や送風量の大きい換気扇への交換などを検討します。また換気扇の取り付け位置、ダクト送風のダクトと送風口の設置位置を点検し必要に応じて変更します。

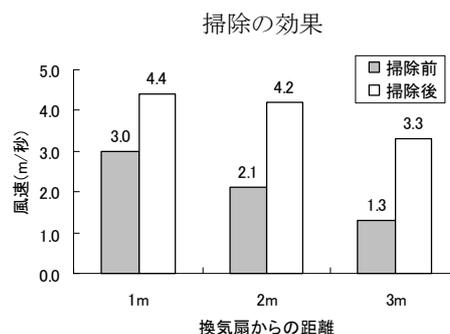
古い換気扇の羽根やフードの埃を掃除した場合、風速が約 2 倍に向上した事例があります。また、消費電力の節約にもつながります。



掃除前の換気扇



1 台分の埃



### (3) 飲水

飲水量を十分に確保することも重要です。水の配管径を太くして水の貯留量を増やす、ウォータータップを増やす、水槽を増設するなど検討します。また、水槽のこまめな清掃も大切です。

**春の農作業安全月間実施中！** [ 4月15日 ]  
[ ~6月15日 ]  
農作業 笑顔の豊作 無事故から

次号は6月28日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。